

中小企業動向 トピックス

中小企業の景況は、持ち直してきているが、先行きにはやや慎重な見方もある

「全国中小企業動向調査（中小企業編）」結果概要
 (2011年7-9月期実績、10-12月期および2012年1-3月期見通し)

当公庫では、お取引先のご協力を得て、2011年9月に全国中小企業動向調査（中小企業編）を実施しました（調査対象 12,990 社、有効回答企業数 6,066 社、回答率 46.7%）。

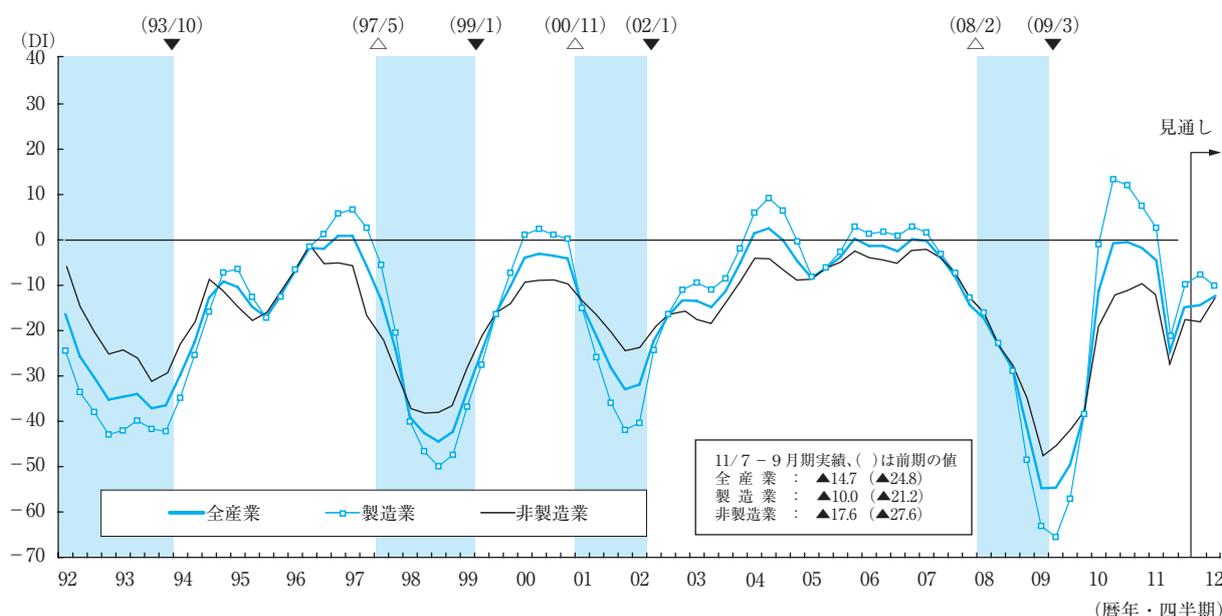
今期は業況判断 DI や売上げ DI が前期から大幅に上昇しましたが、来期以降は上昇がわずかにとどまる見通しで、先行きについてはやや慎重な見方もあります。

業況判断DIは大幅に上昇

今期（2011年7-9月期）の業況判断 DI（全産業）は、前期（2011年4-6月期）から10.1ポイント上昇し▲14.7となりました（図表-1）。業種別にみると、製造業は11.2ポイント上昇し▲10.0に、非製造業も10.0ポイント上昇し▲17.6となりました。中小企業の景況は持ち直してきていることがわかります。

ただ、先行きについてみると、全産業で来期（2011年10-12月期）は▲14.4に、さらに来々期（2012年1-3月期）には▲12.9と、DIの上昇はわずかにとどまる見通しとなっています。

図表-1 業況判断 DI の推移（「好転」-「悪化」企業割合、前年同期比、季節調整値）



(注) △は景気の山、▽は景気の谷、網掛け部分は景気後退期（以下同じ）。

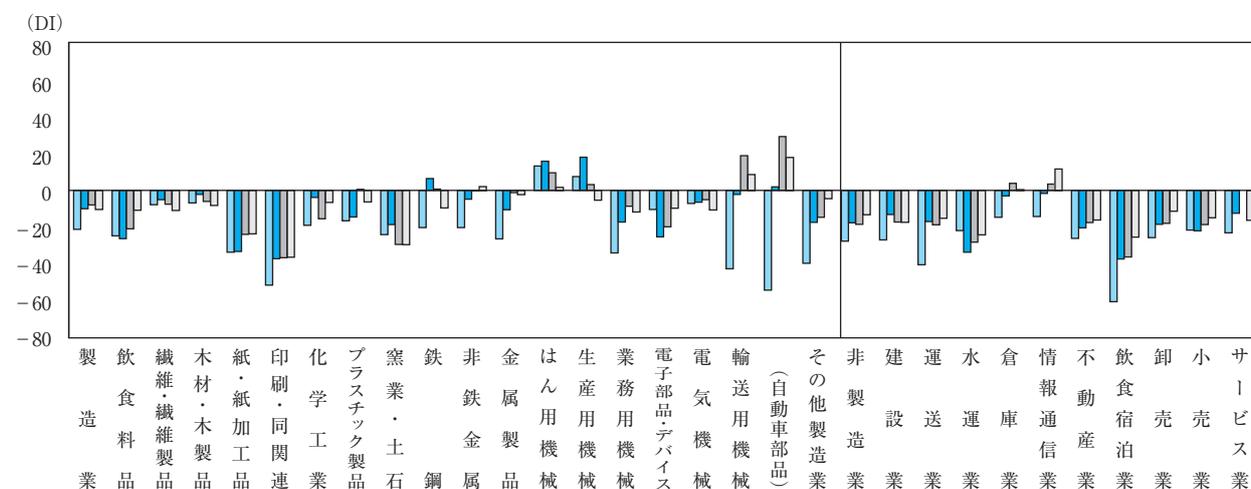
製造業、非製造業ともに多くの業種で上昇

今期の業況判断DIを業種別にみると、製造業は金属・機械関連を中心に多くの業種で上昇しました（図表－2）。特に、自動車部品を含む輸送用機械で大幅に上昇しています。東日本大震災（以下、震災という）の影響で寸断されたサプライチェーン（供給網）が回復してきたことや、自動車メーカー各社の増産の動きが反映されているものとみられます。

非製造業についてみると、震災からの復興需要が少しずつ出てきていることや、消費の自粛ムードが和らいできていることから、建設業や運送業、飲食宿泊業などでDIが大きく上昇しました。

先行きについてみると、今期に上昇した金属・機械関連の製造業のなかでも、はん用機械や生産用機械などで先行きに慎重な見方があります。非製造業では、建設業や運送業でやや低下する見通しとなっています。

図表－2 業種別業況判断DIの推移（「好転」－「悪化」企業割合、前年同期比、季節調整値）

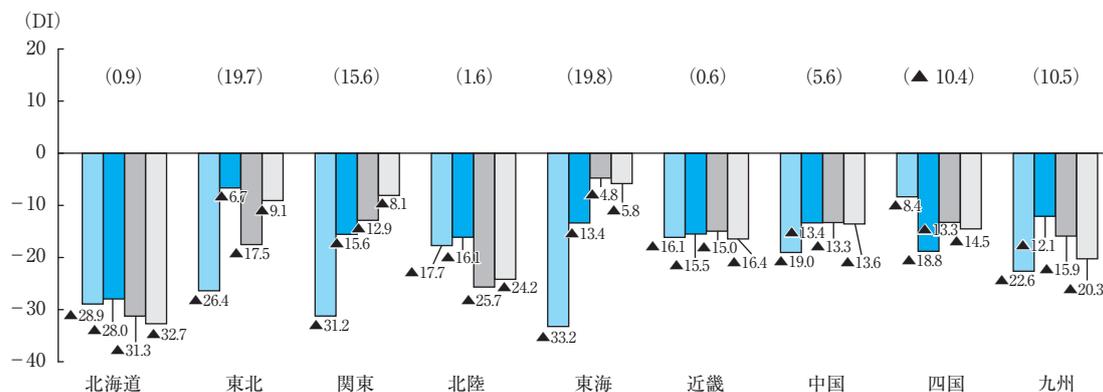


ほとんどの地域で上昇

今期の業況判断DIを地域別にみると、ほとんどの地域で上昇しました（図表－3）。なかでも東北や東海、関東など、震災の影響が大きかった地域で大幅に上昇しています。

先行きについてみると、東海や関東でさらに上昇する見通しとなっています。そのほかは横ばいか低下する見通しの地域が多くなっています。

図表－3 地域別業況判断DIの推移（「好転」－「悪化」企業割合、前年同期比、季節調整値）



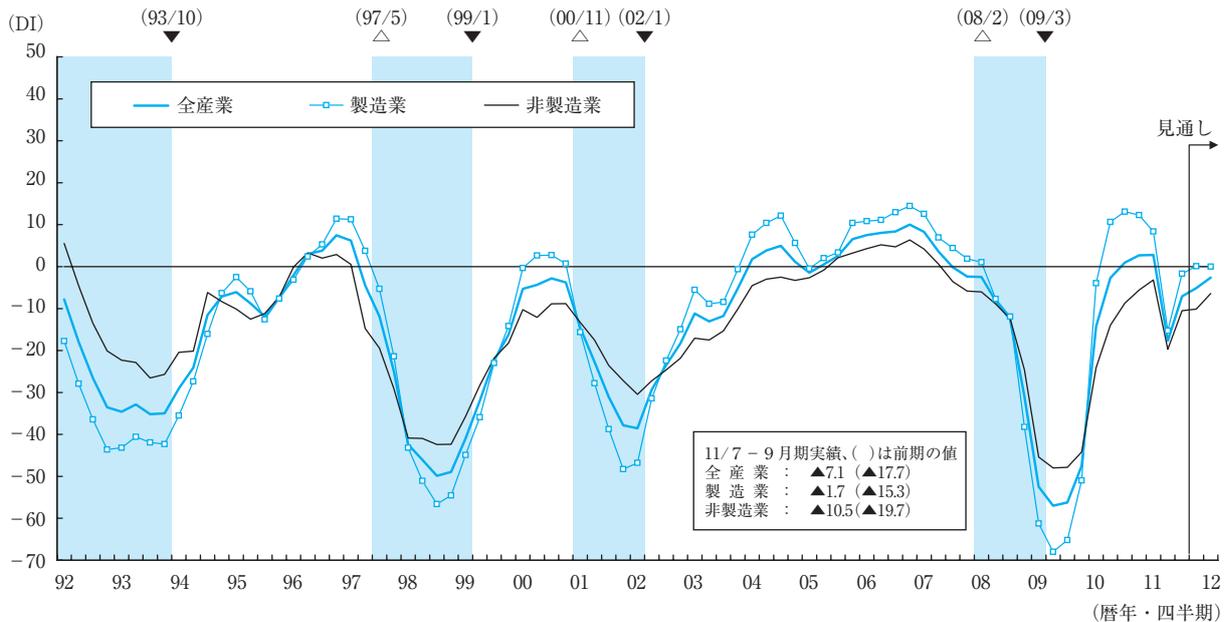
(注) () は前期からの変化幅。

売上げDIは大幅に上昇

今期の売上げDI（全産業）は前期から10.6ポイント上昇し▲7.1となりました（図表-4）。業種別にみると、製造業は前期から13.6ポイント上昇し▲1.7に、非製造業も9.2ポイント上昇し▲10.5となりました。

先行きについてみると、全産業で来期は▲5.1に、来々期には▲2.6まで上昇する見通しとなっています。

図表-4 売上げDIの推移（「増加」-「減少」企業割合、前年同期比、季節調整値）

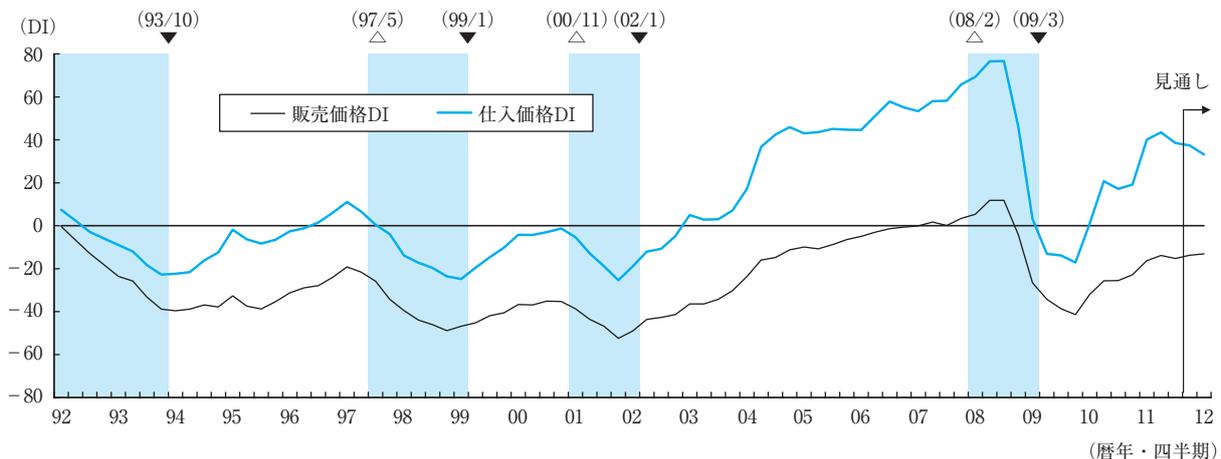


販売価格DIは7期ぶりにマイナス幅が拡大

今期の価格関連DI（全産業）についてみると、仕入価格DIは前期から5.0ポイント低下し38.5となりました（図表-5）。来期も1.1ポイント低下し37.4となる見通しとなっています。これまで続いてきた原材料価格の高騰には一服感もみられます。

販売価格DIは前期から1.4ポイント低下し、▲15.3となりました。マイナス幅の拡大は7期ぶりです。歴史的な円高を背景に、取引先からの強い値下げ要請が相次いでいるとの声が、製造業を中心に多く聞かれました。

図表-5 販売価格DIと仕入価格DIの推移（いずれも「上昇」-「低下」企業割合、前年同期比、原数値）

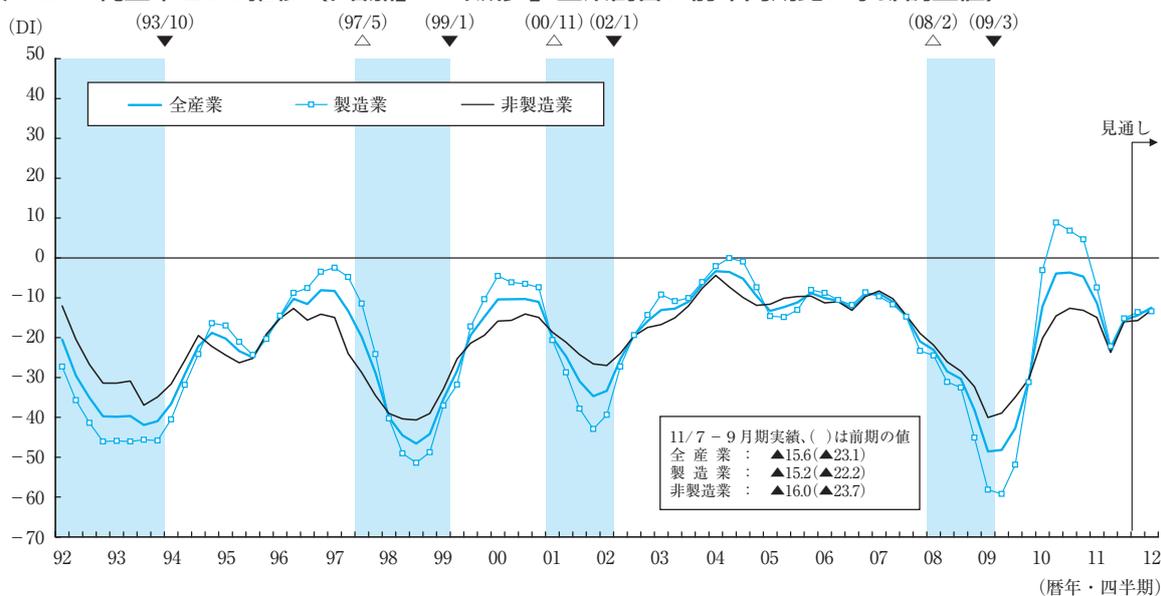


純益率DIは4期ぶりに上昇

今期の純益率DI（全産業）は前期から7.5ポイント上昇し▲15.6となりました（図表－6）。上昇は4期ぶりです。業種別にみると、製造業は前期から7.0ポイント上昇し▲15.2に、非製造業も前期から7.7ポイント上昇し▲16.0となりました。ただ、販売価格の低下もあって売上げDIほど上昇の勢いは強くありません。

先行きについてみると、全産業で来期はやや上昇し▲14.4に、来々期は▲12.5となる見通しです。

図表－6 純益率DIの推移（「増加」－「減少」企業割合、前年同期比、季節調整値）



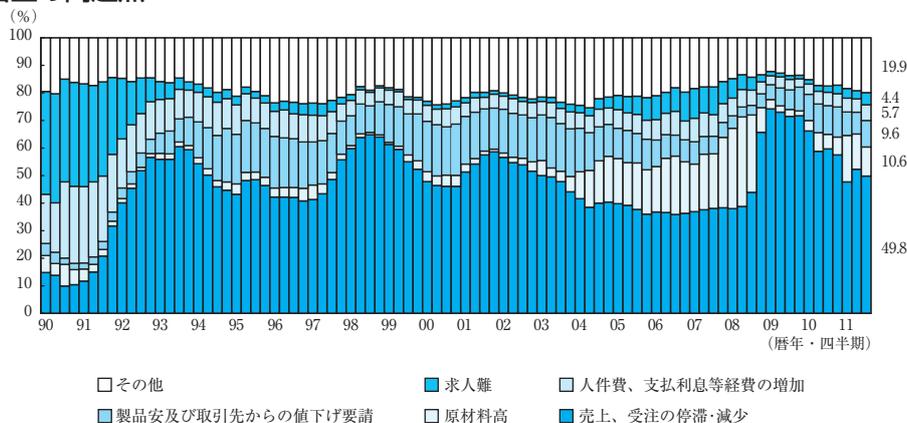
「製品安及び取引先からの値下げ要請」が3期ぶりに上昇

今期の経営上の問題点をみると、「売上げ、受注の停滞・減少」の割合は前期から2.5ポイント低下し、49.8%となりました。「原材料高」の割合も前期から2.2ポイント低下し、10.6%となりました。

一方、「製品安及び取引先からの値下げ要請」は前期から1.7ポイント上昇し、9.6%となりました。震災の影響により悪化した中小企業の景況は持ち直してきていますが、先行きについては、円高や海外経済への不安などを背景に、やや慎重な見方もあります。

（藤田 一郎）

図表－7 経営上の問題点



「中小企業動向トピックス」に関するご意見・ご要望等ございましたら、本支店窓口までお問い合わせください。

発行：日本政策金融公庫 総合研究所 ～ホームページ <http://www.jfc.go.jp/> ～